

柘植地域

まちづくりだより

第275号

発行 柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
(柘植地区市民センター内)

発行日 2021(令和3)年12月1日(水)

電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三
〒五一九一四〇二



柘植地域俳句コーナー
甲賀なる

薬屋が来る

年の暮

森下 伸子

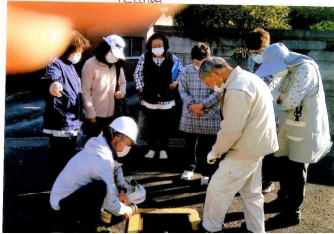
備えあれば、憂いなし!

☆10月3日(日)午前
合同防災訓練を開催しました。

今年度もコロナ禍の中、恒例の柘植地域合同の防災訓練を統一訓練として「安否確認・報告」を、また各区独自訓練として、それぞれの計画に基づき行いました。

安否確認では、コロナの感染拡大に配慮し組内の人員確認をスマホによる「グループライン」で行った区や、また独自訓練でも防火作業や区指定の災害用井戸から汲み上げ保管容器に入れるといった、いざという時に役立つよう趣向を凝らし実施された区もありました。

このように今回も訓練を通して地域防災力の向上を図ることが出来ましたこと心より感謝申し上げます。災害は、いつ何時起こるかも知れません。各家庭においては、「分散避難」も選択肢の一つです。「避難場所」に応じた出来る限りの備えを行っておきましょう!!



冊子「柘植の昔ばなし」

☆小・中学校へ寄贈

教育文化部会では、先に刊行した冊子「柘植の昔ばなし」を小学生高学年と中学生全員に合わせて135冊を寄贈することとし、十一月九日(火)、柘植小学校において贈呈式を行いました。この冊子は、郷土の歴史に造詣の深い田中重之先生の「柘植の歴史」についての講演をもとに、次世代を担う子供たちにも解り易いように先生に纏めていただいたものです。

贈呈式当日は、教育文化部会長より、刊行の目的及び経緯を説明した後、編集者の田中先生より「柘植」の地名の謂れ、俳聖松尾芭蕉の生誕地の話など冊子の内容について一部を紹介していただきました。その後、まちづくり協議会の町田会長より柘植小の松本校長、柘植中の峰校長に贈呈致しました。

校長先生からは、「子どもたちが郷土の歴史に興味を持ち、柘植地域を大切に思うきっかけになれば有難い」と感謝の言葉を頂きました。

尚、贈呈式は、教育ボランティア会議に先立って行ったことから、小・中・保育園の関係者や教育ボランティアの方々も出席して下さいました。



☆森を軸にした

地域づくりを目指して!

去る十一月八日(月)、午後5時から柘植地区市民センターにおいて、「柘植の森林整備」に関する懇談会が開催されました。

未来につながる森づくりを進めようと「伊賀市未来の山づくり協議会」の町田柘植地区代表(まちづくり協議会会長)と「伊賀市森林組合」理事の北川安昭さんが、森林組合の各区総代や専門員、行政関係者の皆さんに呼びかけ実現したものです。

近年、森林の保有力が低下したことなどによる洪水氾濫や山腹崩壊、流木被害などの甚大な災害が各地で発生していることか

ら、森林整備の促進は喫緊の課題であると言えます。この為、昨年度には森林環境譲与税の譲与額が前倒しで増額され、森林経営管理制度の運用や同税を活用した取組みを充実させるべく各種事業が本格的に始まりました。

柘植地域においても、長期間にわたり手入れがなされていない山林が増加しています。森林の持つ機能や役割、林業をめぐる現状と課題にしっかりと目を向け、特に条件不利地における森林整備の拡大に地域と行政、関係機関が協同し取り組まなければなりません。

今回の懇談会では、森林組合が行っている集約化の概要や推進の流れ、森林の境界明確化事業について専門員の方から詳しく説明をして頂きました。また、その後の質問や意見交換なども活発に行われ、豊かな緑に恵まれた郷土(柘植)を次の世代に引き次いでいくことの必要性について、出席者一同が理解と認識を深めました。



※森林環境譲与税は、市町村においては、間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等「森林整備及びその促進に関する費用」に充ててられています。

★☆☆ 編集後記 ☆☆☆

▼編集後記を事故顛末記に代えさせて戴く事をお許し下さい。私は今、岡波病院の整形外科病棟の病室で此れを書いて居ます。
▼去る十一月三日(文化の日)夜6時半頃蔵持の側道をウォーキング中、側道横にコンクリートの用水路が在る事が、真っ暗で判らず、2Mの高さから転落しました。

墮ちた瞬間、右足に激痛が走り、膝から下が反対方向に曲がり、折れた右足が水流でぶらぶらして居り、余りの痛さで息も絶えだえ。唯一の救いが胸ポケットに仕舞って有った「携帯」が無事で、何とか自力で消防の方と連絡が取れ、名張消防署のレスキュー隊の方々が6人水路の下に降り担架に乗せて、上で6人の方が担架を吊り揚げてくれて岡波病院へ救急搬送されました。

▼当夜の応急手術(5時間)と、16日の2回目の手術(7時間)で、折れた脛骨と腓骨を両側からチタンのプレートで固定しボルトで止め、落下の衝撃で碎けた他の骨の数々を修復固定するという大手術でした。
▼消防庁の昨年のデータに拠ると、側溝や用水路・農業用水路等に転落して死亡した人は全国で150人、負傷者は1800人を超えて居ます。

▼私も頭や顔・胸をコンクリートの側壁に強打して、そして何より「携帯」を所持していなければ、夜で殆ど人通りが無い所なので助かって居なかったと思つて居ります。

▼皆様も出掛けられる際は、必ず「携帯電話」を肌身放さずお持ち下さい。山で遭難しても携帯にはGPS機能が付いており、位置を特定して貰えます。以つて「他山の石」として戴きたく、お伝えする次第です。
◆「携帯電話」は、「命綱」です。

▼生まれて此の方68年間、一度も入院経験が無く、初めての入院療養生活です。矢張り、人生観が大きく変わりました。

「健康健常」で普通に日常生活が送られる事の有難さ、そして其の事が、最上の喜びで或る事が、本当に身に沁みて解りました。

そして、不幸にも事故で障害を抱える事に為り、リハビリに勤しんで居られる方々を傍で見えてお気持ちの一端が判る次第です。

▼【禍福は糾える縄の如し】・此の世の幸・不幸は縄を寄り合わせる様に、交互に絡み合い表裏を為して居り、変転する。

◆人生、何が起こるか分かりません。上り坂・下り坂、そして、ま坂(まさか)の坂に転ばぬ様、皆様十二分にお気を付け下さい。▼私は、何とか一命を取り留めさせて戴きました。助けて下さった消防士・医師・看護師・理学療法士の皆様、全ての方々に深く感謝申し上げます。

▼末筆乍ら、入院中大変御迷惑をお掛けして居りますセンターの内田さん始め、支所の関係者の皆様に多大な御支援を戴いて居ります事、深謝申し上げます。種々支障を来し誠に申し訳御座居ません。(清水)